

令和元年 12 月 23 日
福岡管区気象台

2019 年の九州北部地方（山口県を含む）の天候（速報）

- 冬（2018 年 12 月～2019 年 2 月）は、2007 年と並び最も高温となりました。
- 春は、1946 年の統計開始以降、日照時間として最も多くなりました。
- 夏は、7 月と 8 月後半を中心に前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、不順な天候となりました。
- 梅雨入りが統計開始（1951 年）以降、最も遅くなりました。

2019 年の天候の特徴は以下のとおりです。

- 冬は北からの寒気の影響が弱かったことから、統計開始（1946/1947 年冬）以降、2007 年と並び最も高温となりました。
- 春は期間を通して高気圧に覆われる日が多く、日照時間は 1946 年の統計開始以降、最も多くなりました。
- 夏は前線や湿った空気の影響で降水量が多く、日照時間は少なくなりました。特に 8 月 28 日は佐賀県や福岡県及び長崎県で大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など大きな被害が発生しました。
- 秋は暖かい空気に覆われ、気温がかなり高くなりました。
- 梅雨入りは 6 月 26 日ごろと、統計開始以降、最も遅くなりました。

注）本資料は、12 月 22 日までの観測データをもとに速報としてまとめたものです。
なお、概況、統計値等は別紙をご覧ください。

12 月 31 日までの観測データによる資料は令和 2 年 1 月 6 日に発表します。

※1 九州北部地方（山口県を含む）の気象官署、特別地域気象観測所を対象として掲載しています。

※2 平年値は 1981-2010 年の 30 年間の観測値の平均をもとに算出しています。

問合せ先：福岡管区気象台気象防災部
地球環境・海洋課 担当：川口
電話 092-725-3613（内線 3610） FAX 092-761-1726

《季節毎の概況》

冬（2018年12月～2019年2月）は、統計開始（1946/47年冬）以降、2007年と並び歴代1位の高温となった。

西日本付近で偏西風が北へ蛇行したため寒気の影響が弱く、暖かい空気に覆われたため、統計開始以降では2007年と並び歴代1位の高温となった（図1）（表1）（表2）。

春（3月～5月）は、日照時間が統計開始（1946年）以降、最も多かった。

期間を通して高気圧に覆われる日が多く、統計開始（1946年）以降、春の日照時間として最も多かった（図3）（表1）（表2）。

夏（6月～8月）は、降水量が多く、日照時間は少なかった。

太平洋高気圧の北への張り出しが弱かったことから梅雨前線の北上が遅れ、梅雨入りが統計開始（1951年）以降、最も遅かった（表4）。6月は梅雨前線の北上が遅れたことから、降水量がかなり少なく日照時間はかなり多かった。一方、7月は梅雨前線が本州南岸に停滞する日が多くなり降水量が多かったほか、長崎県の五島や対馬では記録的な大雨となった。

8月後半も前線や湿った空気の影響を受け、佐賀県や福岡県及び長崎県では記録的な大雨となった（図2）。

秋（9月～11月）は、暖かい空気に覆われたため、気温がかなり高かった。

暖かい空気に覆われたため気温がかなり高くなり、牛深（熊本県）では歴代1位となる高温となったほか、山口や飯塚（福岡県）、佐賀、大分では歴代1位タイとなる高温となった（図1）。

12月（12月22日まで）。平均気温は高かった。

上旬は寒気の影響で気温が低かった日もあったが、中旬以降は暖かい空気に覆われたことから高くなり、期間平均としては高かった（図1）。

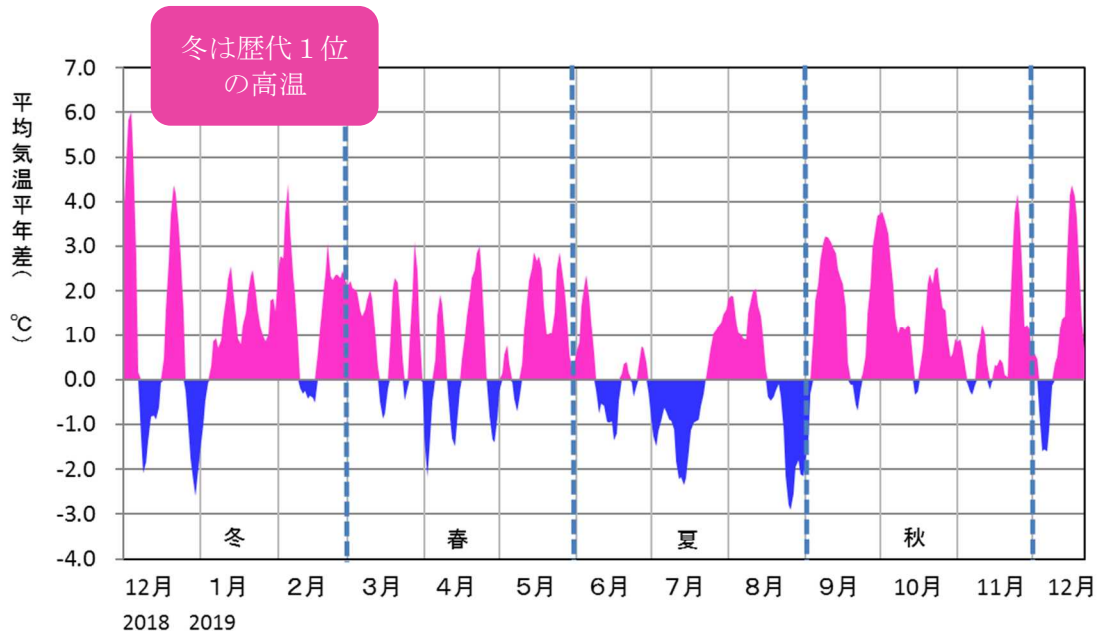


図1 九州北部地方の平均気温の地域平均平年差（5日移動平均）

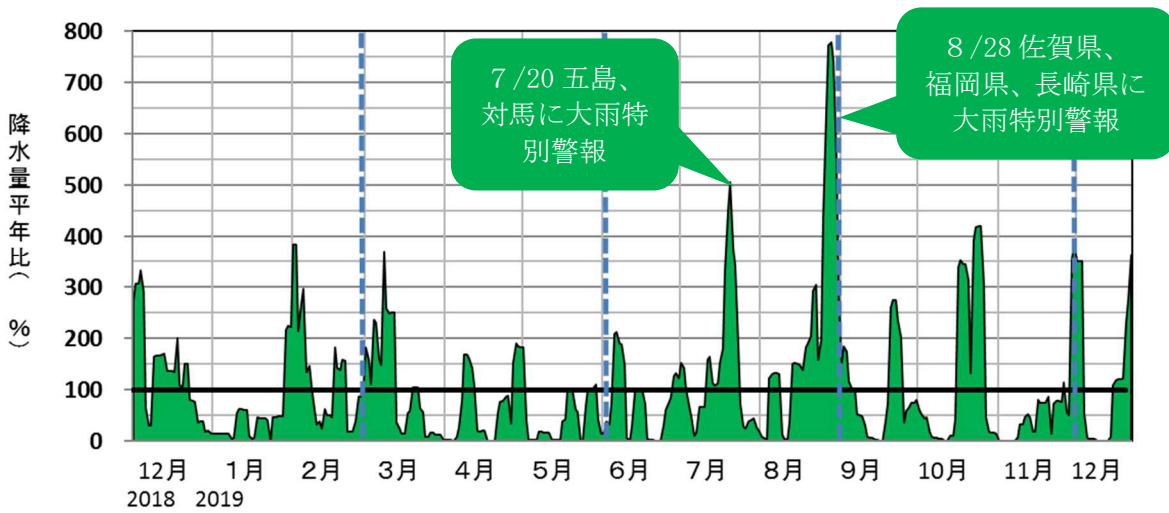


図2 九州北部地方の降水量の地域平均平年比（5日移動平均）

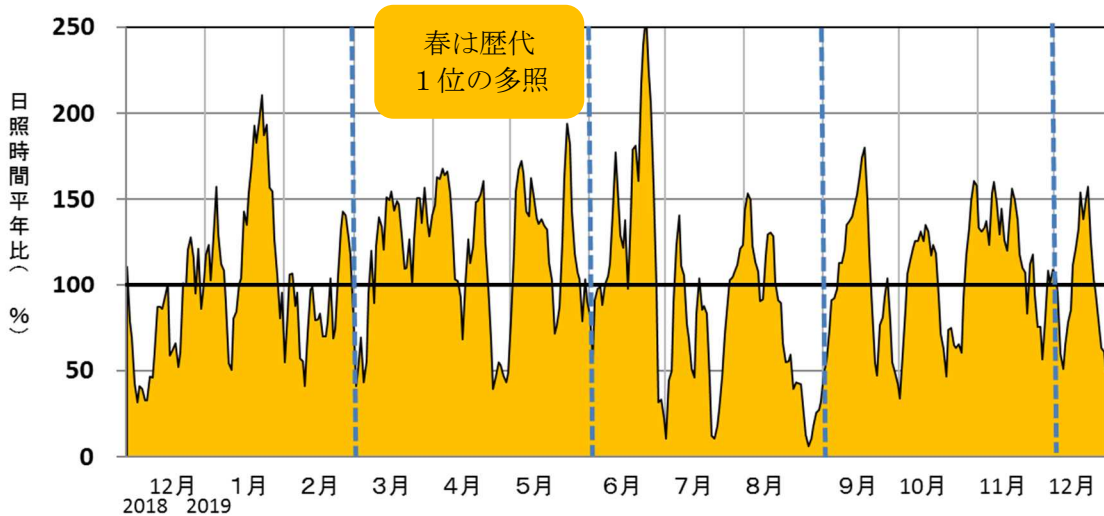


図3 九州北部地方の日照時間の地域平均平年比（5日移動平均）

表1 九州北部地方（山口県を含む）の平均気温・降水量・日照時間の地域平均平年差（比）

	平均気温平年差(°C)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
2018年12月	高い(+1.1)	多い(153)	かなり少ない(75)
2019年1月	高い(+1.2)	少ない(59)	かなり多い(127)
2月	高い(+1.7)	平年並(101)	少ない(89)
冬(12月~2月)※	かなり高い(+1.4)	平年並(103)	平年並(96)
3月	かなり高い(+1.3)	平年並(99)	多い(120)
4月	平年並(+0.3)	少ない(80)	多い(108)
5月	かなり高い(+1.2)	かなり少ない(34)	かなり多い(130)
春(3月~5月)	かなり高い(+0.9)	かなり少ない(68)	かなり多い(120)
6月	平年並(+0.2)	少ない(65)	多い(129)
7月	低い(-0.7)	多い(134)	少ない(76)
8月	平年並(0.0)	かなり多い(241)	少ない(78)
夏(6月~8月)	平年並(-0.1)	多い(131)	少ない(91)
9月	高い(+1.5)	平年並(94)	平年並(103)
10月	かなり高い(+1.6)	平年並(123)	平年並(99)
11月	高い(+0.9)	少ない(38)	かなり多い(123)
秋(9月~11月)	かなり高い(+1.3)	平年並(88)	多い(108)
12月(22日まで)	高い(+1.2)	多い(163)	平年並(91)
年(1月1日~12月22日)	かなり高い(+0.9)	平年並(103)	多い(105)

平年値は1981~2010年の平均

※冬は2018年12月から2019年2月までの期間

地域平均気温平年差（比）は、いつもの年（平年）と比べてどのくらい暖かい（多い）・寒いか（少ない）を地域全体でみるもので、九州北部地方（山口県を含む）の雲仙岳を除く16地点（表3参照）における平年差（比）を平均して算出しています。

表2 季節（3か月）の極値更新（九州北部地方平均、1位のみ）

要素	値(単位)	季節	これまでの極値 (単位) (年)
平均気温平年差の高い 方から(°C)	+1.4(°C)	冬(2018年12月~ 2019年2月)	+1.4(°C) 2007
日照時間平年比の 多い方から(%)	120(%)	春(3月~5月)	119(%) 2013

平年値は1981~2010年の平均

表3 各地点の2019年の年平均気温・年降水量・年間日照時間（12月22日まで）

地点名	平均気温 (°C)	平年差 (°C)	降水量 (mm)	平年比 (%)	日照時間 (h)	平年比 (%)
山口	16.6	+1.0	1941.0	104	1931.8	107
下関	17.9	+0.9	1577.0	95	1958.2	106
萩	16.7	+1.0	1739.5	106	1849.8	109
福岡	18.2	+1.0	1584.0	99	1966.7	107
飯塚	16.8	+0.8	1603.0	92	1865.5	104
佐賀	18.0	+1.2	2052.5	111	2016.6	105
長崎	18.1	+0.6	1743.5	95	1933.9	106
厳原	16.9	+0.9	2697.0	121	1961.1	108
平戸	17.1	+0.7	2403.5	115	1879.9	107
佐世保	18.0	+0.7	1828.0	95	2029.9	108
雲仙岳	13.7	+0.6	2545.5	89	1525.5	108
福江	17.6	+0.5	2966.0	128	1851.9	107
熊本	18.0	+0.8	2002.5	102	2038.9	104
人吉	16.7	+0.9	2351.5	99	1756.8	98
牛深	19.0	+0.7	1849.5	95	2064.9	108
大分	17.7	+1.0	1704.0	104	1945.1	99
日田	16.7	+0.9	1722.0	96	1796.2	102

平年値は1981～2010年の平均

(注1) これらは1月1日から12月22日までの観測値を使った集計結果である。

(注2) 平年差(比)は同期間の日別平年値を平均・合計したものに対する差(比)である。

＜九州北部地方（山口県を含む）の梅雨の記録＞

梅雨入りは統計開始（1951年）以降、最も遅かった。梅雨明けは平年より6日遅かった（表4）。梅雨の時期の降水量（6月と7月の降水量の合計）の地域平均平年比は100%と平年並だった（表5）。

表4 2019年の梅雨入り・梅雨明け※1

地域	梅雨入り	平年の梅雨入り	梅雨明け	平年の梅雨明け
九州北部地方	6月26日ごろ (かなり遅い) 歴代1位	6月5日ごろ	7月25日ごろ (遅い)	7月19日ごろ

(※1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「〇〇日ごろ」と表現した。

表5 九州北部地方（山口県を含む）の主な地点の梅雨期間（6月と7月）の降水量

	地点名	降水量 (mm)	平年比 (%)	平年値 (mm)
九州北部地方 (平年比100%)※2	下関	493.0	88	561.9
	福岡	389.5	73	532.7
	佐賀	561.5	83	677.5
	長崎	618.0	98	629.0
	熊本	853.0	106	805.7
	大分	589.5	112	526.3

平年値は1981～2010年の平均

(※2) 九州北部地方（山口県を含む）雲仙岳を除く16地点での観測値を用い、梅雨の時期（6～7月）の地域平均降水量を平年比で示した。

＜九州北部地方（山口県を含む）に接近・上陸した台風＞（注）

2019年の台風の発生数は、29個（平年25.6個）であった（表6）。

九州北部地方への台風の接近数（上陸数を含む、注1）は5個（平年3.2個）で、台風第3号（6月27日）、台風第8号（8月6日）、台風第10号（8月15日）、台風第17号（9月22日）及び台風第18号（10月2日）であった（表7）（図4）。

九州への台風のの上陸数（注3）は1個で、台風第8号が8月6日午前5時頃に宮崎市付近に上陸した（表8）（図4）。

（注1）「九州北部地方への接近」は台風が中心が九州北部地方の気象官署等から300km以内に入った場合を指す。

（注2）「九州への上陸」は台風が中心が九州本土の海岸線に達した場合を指す。

（注3）値が空白となっている月は、平年値を求める統計期間内に該当する台風が1例もなかったことを示す。

（注4）台風は12月22日までの観測データ。

表6 台風の発生数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
2019年	1	1	0	0	0	1	4	5	6	4	6	1	29
平年値	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6

表7 九州北部地方（山口県を含む）への台風の接近数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
2019年	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
平年値	—	—	—	0.0	0.0	0.3	0.8	1.0	1.0	0.3	—	—	3.2

※本表は台風の発生月別にまとめたもの。台風によっては発生月と接近月が違う場合があるがここでは示さない

表8 九州への台風のの上陸数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
2019年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

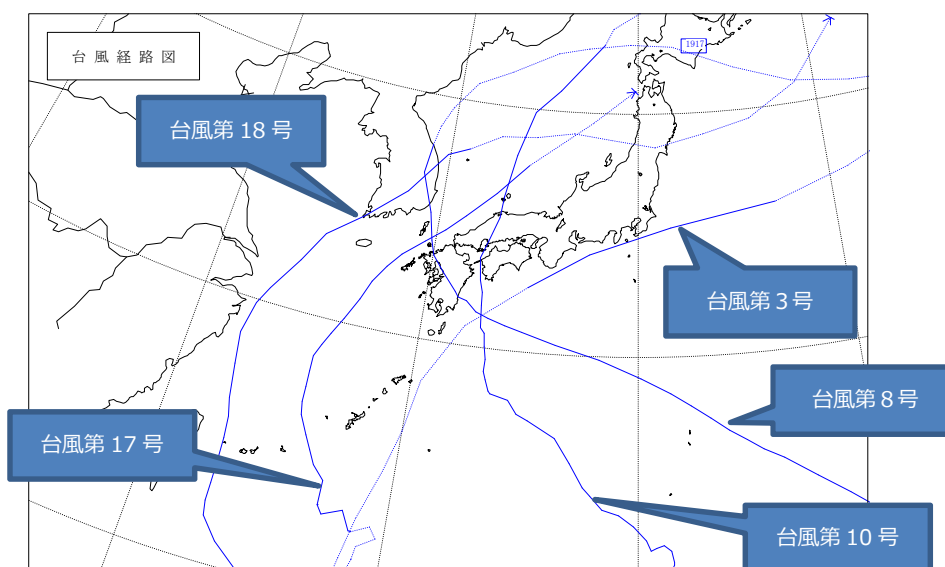


図4 九州北部地方（山口県を含む）に接近・上陸した台風経路図
実線は台風、点線は熱帯低気圧又は温帯低気圧を示す